

2025年度 第3四半期 決算説明資料






2026年2月10日

株式会社三井E&S



※ ・売上高、営業利益は、第3四半期も成長を維持して増収増益
 ・好調な第3四半期実績を踏まえ、2025年度の営業利益見通しを上方修正

2025年度 第3四半期 決算概要

◆ 受注高	2,076 億円	(前年同期比 )
◆ 売上高	2,532 億円	(前年同期比 )
◆ 営業利益	311 億円	(前年同期比 )

2025年度 見通し

◆ 受注高	3,000 億円	(前回発表見通し比 )
◆ 売上高	3,400 億円	(前回発表見通し比 )
◆ 営業利益	350 億円	(前回発表見通し比 )

トピックス

- ◆ 「港湾DX部」の新設
- ◆ アンモニア燃料推進システムの生産能力増強について
- ◆ 従業員持株会型RS制度の導入
- ◆ 格付投資情報センター（R&I）より、格付け A－［ポジティブ］を取得

2025年度 第3四半期 決算概要

- ※ ・売上高、営業利益は、豊富な手持ち工事を背景にして大幅に改善
・四半期純利益は、前年同期の関係会社株式売却益の反動で減少

(単位：億円)

	24年度3Q累計	25年度3Q累計	増減
受注高	2,574	2,076	△498
売上高	2,187	2,532	+344
営業利益	138	311	+174
営業利益率	6.3%	12.3%	-
経常利益	193	360	+167
経常利益率	8.8%	14.2%	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	352	254	△98

＜期中平均為替レート＞

	24年度3Q累計	25年度3Q累計
USドル	151.21円	152.57円

2025年度 第3四半期 セグメント別決算概要

- ※ ・受注高は、前年同期が好調であったことから減少したが当初計画通りで推移、
 売上高は、手持ち工事の着実な進捗によって増加
 ・営業利益は、船用推進システム部門、物流システム部門を中心に倍増

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	増減	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	増減	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	増減
成長事業推進	344	337	△7	270	305	+35	41	56	+14
船用推進システム	1,150	756	△394	988	1,097	+109	62	132	+70
物流システム	591	458	△133	413	456	+43	41	101	+60
周辺サービス	488	524	+36	502	673	+171	△8	25	+33
その他	1	1	0	16	1	△14	1	△3	△3
合計	2,574	2,076	△498	2,187	2,532	+344	138	311	+174

2025年度 第3四半期 連結キャッシュ・フローの概要

※ 利益の獲得及びコンテナクレーンの売掛金回収により、
営業キャッシュ・フローの改善が進む

(単位：億円)

	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	増減	
営業CF	84	331	+247	25年度3Qは、営業利益の獲得や、コンテナクレーンの売掛金回収が進んだことなどにより、331億円の黒字
投資CF	629	11	△618	24年度3Qの629億円は、主に関係会社株式の売却による収入
フリーCF	713	342	△371	
財務CF	△679	△ 189	+490	24年度3Qは、主に上記株式売却収入を原資として短期借入金を大幅に圧縮

2025年度 連結業績通期見通し

※ ・成長事業推進部門、舶用推進システム部門、物流システム部門が、
好調に推移していることから、営業利益の上方修正を実施
・年間配当金を1株当たり50円に増額（期初予想30円）

（単位：億円）

	前回見通し 2025/11/12	今回見通し 2026/2/10	増減
受注高	3,000	3,000	0
売上高	3,400	3,400	0
営業利益	300	350	+ 50
経常利益	310	400	+ 90
親会社株主に帰属する 当期純利益	260	310	+ 50
フリーCF	110	110	0
有利子負債	950	950	0
年間配当金（1株当たり）	未定（期初予想30円）	50円	+ 20円（期初予想比）

※ 前提為替レート US \$ = 150円

※ USドル1円の為替変動が営業利益に与える影響はほぼありません

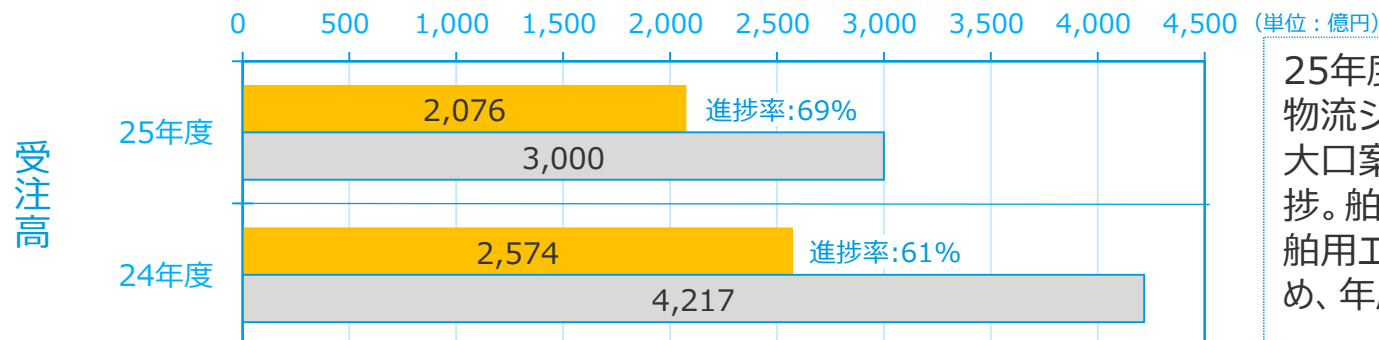
2025年度 セグメント別業績通期見通し

※ 好調な船用推進システム部門、物流システム部門が牽引することで、
営業利益合計の通期見通しを上方修正

(単位：億円)

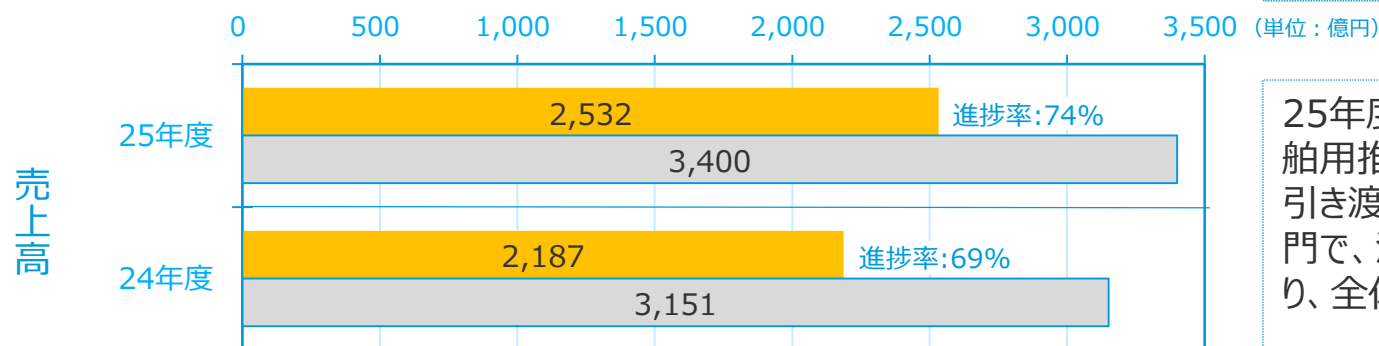
	受注高			売上高			営業利益		
	前回見通し 2025/11/12	今回見通し 2026/2/10	増減	前回見通し 2025/11/12	今回見通し 2026/2/10	増減	前回見通し 2025/11/12	今回見通し 2026/2/10	増減
成長事業推進	500	500	0	400	400	0	60	65	+5
船用推進システム	1,200	1,200	0	1,500	1,500	0	120	145	+25
物流システム	600	600	0	650	650	0	90	120	+30
周辺サービス	700	700	0	850	850	0	30	20	△10
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3,000	3,000	0	3,400	3,400	0	300	350	+50

※ 受注高及び売上高は概ね計画通り、営業利益は上方修正



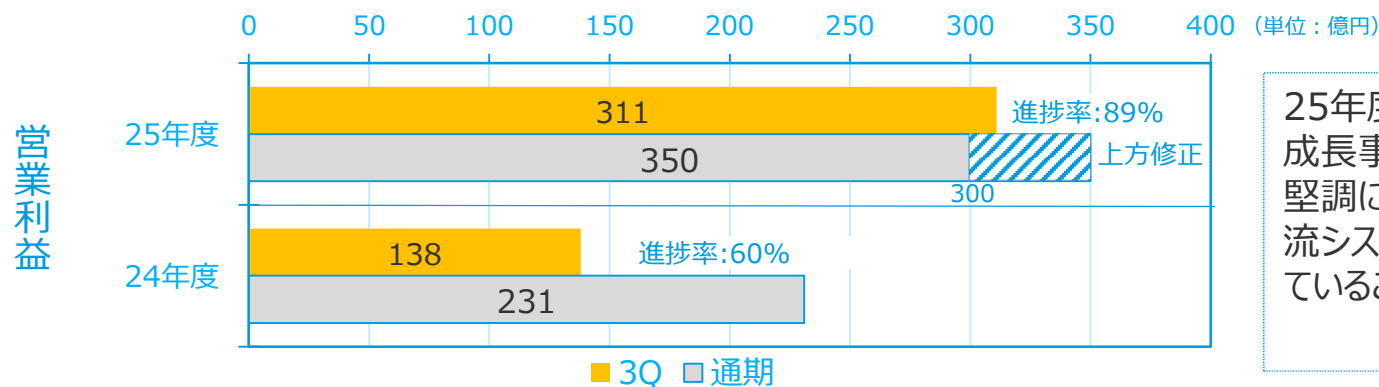
25年度 3Q:

物流システム部門や周辺サービス部門は、海外大口案件などの受注により、概ね予定通りの進捗。船用推進システム部門は、進捗率は低いですが、船用エンジンの引き合いは引き続き旺盛であるため、年度予想に変更はない。



25年度 3Q:

船用推進システム部門において、既受注案件の引き渡しを着実に進んだことや、周辺サービス部門で、海外大口工事案件が進捗したことなどにより、全体として概ね順調な進捗となった。



25年度 3Q:

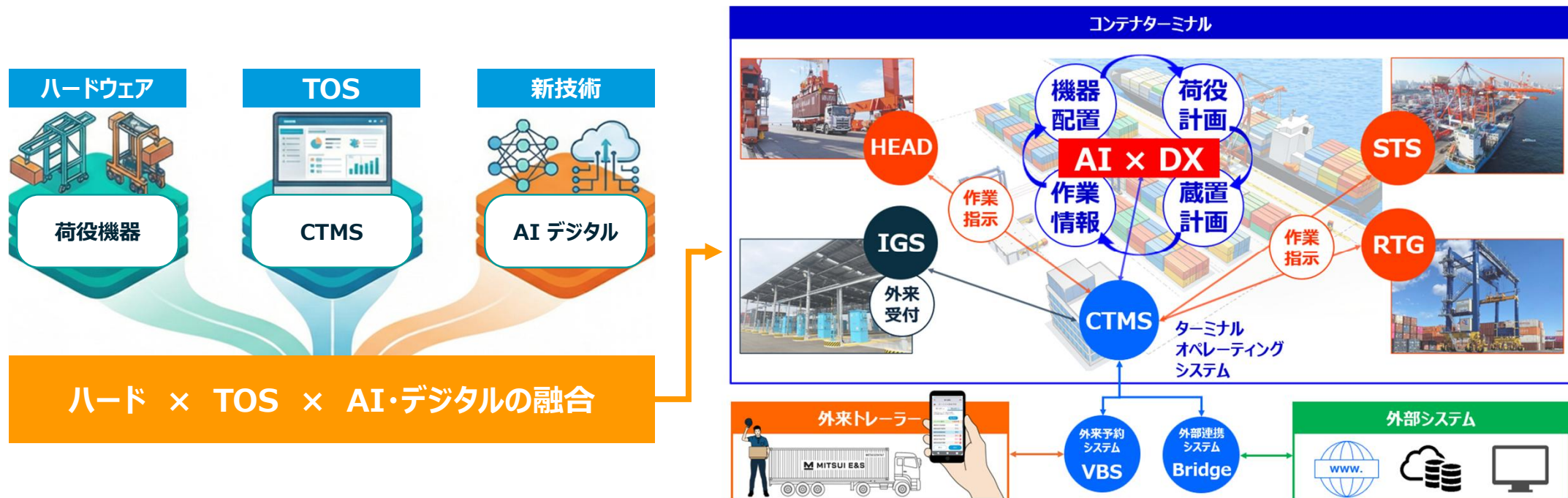
成長事業推進部門で、アフターサービス事業が堅調に推移していること、船用システム部門、物流システム部門においても、実績が好調に推移していることから、通期見通しを上方修正した。

「港湾DX部」の新設

※ コンテナターミナルにおけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を加速させるため、
物流システム事業部に新たに「**港湾DX部**」を新設

既存技術である「ハード（ポーテナ/トランステナ）」と「ターミナル オペレーション システム（TOS）」に
「デジタル技術」と「AI技術」を融合させ、次世代のコンテナターミナルを実現

安全で、人を支援する、持続可能なコンテナターミナルへ



港湾オペレーションのデジタル化・高度化を推進する体制を構築し、
港湾・物流分野に、「新たな価値」を創出

※環境省 と国土交通省の連携事業である「ゼロエミッション船等の建造促進事業」に、
「アンモニア燃料推進システムの生産能力増強」を応募し、採択された

「ゼロエミッション船等の建造促進事業」

ゼロエミッション船等の国内生産体制を構築し、産業競争力強化及び経済成長を図ることを目的

すでに生産を開始している LNG、LPG、メタノールなどを用いた二元燃料エンジンに加えて、
当社は本事業を活用した先行投資により、アンモニアを用いた二元燃料エンジン（及び燃料供給装置）
の生産を加速させる。

また、我が国の海事産業は、2035年における建造能力倍増を目標に掲げており、
当社は船用エンジンのトップメーカーとして、その実現に向けて、供給責任を果たしていく。

二元燃料エンジン	2024年度	2030～2040年度
対象燃料 ラインナップ	LNG、LPG、メタノール など	LNG、LPG、メタノール など + <u>アンモニア</u>



船用エンジンの生産体制の整備を進め、
次世代船舶をはじめとする我が国建造船舶の世界シェア拡大と、海事産業の発展に貢献する

※ 従業員向けの株式報酬として、持株会型の譲渡制限付株式（Restricted Stock）を交付

【目的】

人的資本投資（モチベーション・人材確保）

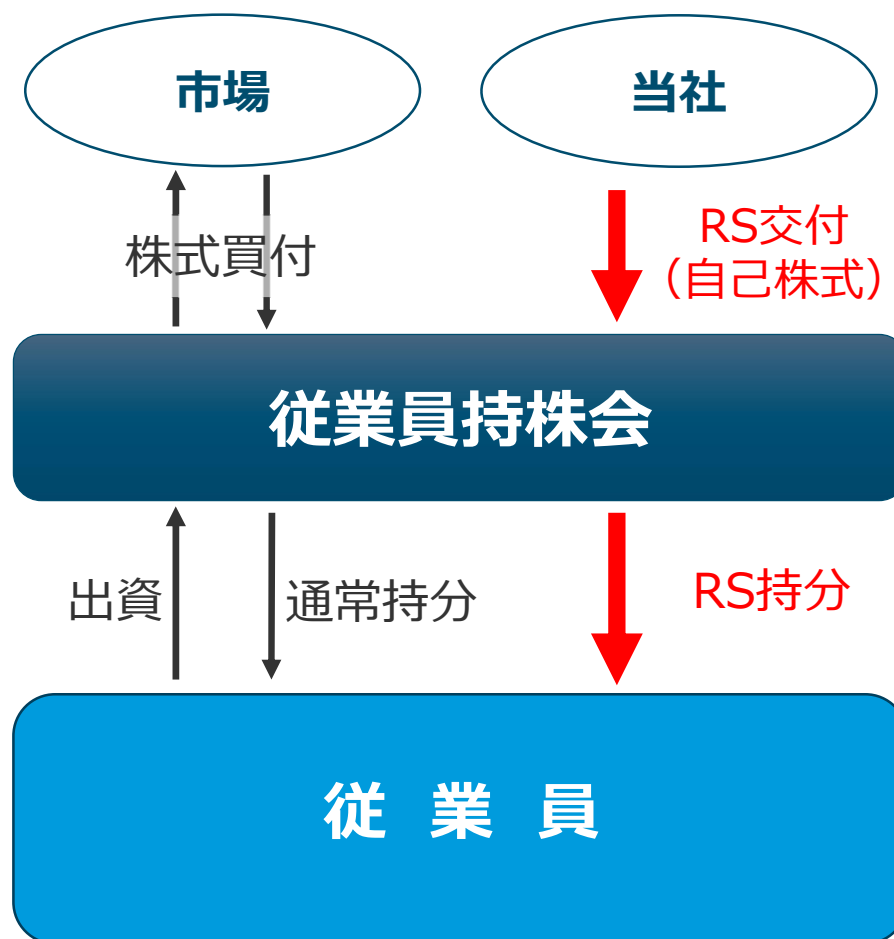
【内容】

従業員持株会加入を条件に
会社が無償で自己株式（5万円/1人）を交付
譲渡制限期間（5年）後、売却可能

【効果】

持株会を通じて経営陣・従業員の一体感を高めた上で
事業の成長を加速し、企業価値向上を図ることができる。
（株式希薄化は極めて限定的）

※詳細は、当社HP（https://www.mes.co.jp/news/2026/0210_02/）を
ご覧下さい。



従業員持株会型RS制度導入により、
事業の成長を加速させ、当社の持続的な企業価値向上を図る

※ 格付投資情報センター（R&I）より、
発行体格付について、A－［ポジティブ］を新規取得

	新規
発行体格付	A－
格付の方向性	ポジティブ

取得日：2025年12月24日

＜主な格付理由＞

- ・船用エンジンや港湾クレーンを中核事業とし、産業機器など多様な製品を手掛ける
- ・国内で高い市場地位を占める製品が多い
- ・収益源の分散効果が一定程度見込め、全体の収益基盤は強固
- ・堅調な需要を背景に増益基調が継続しており、収益力は比較的強い
- ・債務とキャッシュフローのバランスや資本負債構成は良好な水準に近づきつつある

堅調な需要に応じて利益・キャッシュフローを安定的に創出し、
財務基盤の強化を継続していくことで、更なる格上げを目指す

※ 関係会社株式など大型資産の売却が完了

特別損益などの影響が少ない本業主体の利益構造となる

(単位：億円)

科目	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	増減	
売上高	2,187	2,532	+344	
売上総利益	343	540	+196	
販売費及び一般管理費	206	228	+22	
営業利益	138	311	+174	
営業外収益	84	72	△12	主に関係会社株式の売却による持分法投資利益の減少
営業外費用	29	24	△5	
経常利益	193	360	+167	
特別利益	242	3	△239	24年度3Qの242億円は、主に関係会社株式売却益
特別損失	44	25	△19	
税金等調整前四半期純利益	391	337	△54	
法人税等	39	80	+41	25年度3Qの増加は、主に24年度3Qにおける繰延税金負債の取崩しによる影響
非支配株主に帰属する 四半期純利益	0	3	+3	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	352	254	△98	

参考) 2025年度 第3四半期 連結貸借対照表の概要

※ ・継続的な利益の積み上げにより、自己資本比率が向上

・売掛金回収によって、運転資本が改善

(単位：億円)

		24年度	25年度3Q	増減	
資産合計		4,492	4,752	+260	
(現金及び預金)		354	508	+154	
(受取手形、売掛金及び契約資産等)		1,079	936	△143	主にコンテナクレーンの売掛金回収による減少
(棚卸資産)		699	815	+116	主に舶用エンジンの手持ち工事増加による仕掛品の増加
(有形・無形固定資産)		1,303	1,278	△25	
(投資有価証券)		297	468	+171	株価上昇に伴う増加
負債合計		2,751	2,661	△89	
(支払手形及び買掛金等)		591	611	+20	
(契約負債)		442	486	+44	
(有利子負債)		978	837	△142	短期借入金及び長期借入金の返済による減少
	うち短期借入金	540	433	△107	
	うち長期借入金	438	404	△34	
純資産合計		1,742	2,091	+349	
(自己資本)		1,698	2,045	+347	主に利益剰余金の積み上げによる増加
(自己資本比率)		37.8%	43.0%	-	
運転資本(*)		701	604	△97	主に売掛金回収による減少(改善)
D/Eレシオ		0.6倍	0.4倍	-	

(*) 運転資本 = 売上債権(除く前受金) + 棚卸資産 - 仕入債務

※ 豊富な受注残高を抱える中、生産実績を順調に積み上げ

	24年度 3Q累計		25年度 3Q累計		25年度 見通し	
	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)	基数	馬力数 (万馬力)
受注高	81	233	49	108	—	—
売上高	108	219	96	215	—	—
受注残高	93	245	107	310	—	—
生産実績	99	200	109	237	146	316



MITSUMI E&S

Engineering & Services for Evolution & Sustainability

本資料のうち、当社の業績見通し、目標、計画、戦略等には将来に関する記述が含まれております。これらは現時点で把握可能な情報に基づき当社が合理的に判断した見通しであり、既知、未知のリスクや不確実性を含んでおります。従いまして、将来における当社の実際の業績または展開が大きく異なる可能性があります。